道徳・特活だより

あ　し　あ　と

～生徒の夢を現実にする学校をめざして～

Ｖｏｌ．４４
令和３年３月１５日
上島町立弓削中学校

「一期一会」　～出会った一人一人を大切に～

例年より一足早く桜の開花便りが発表され、本格的な春の訪れを感じさせる今日この頃です。いよいよ３年生との別れの時が近づいてきました。３月から４月にかけて、卒業や入学、転勤や引っ越しなど別れと出会いの機会が多い時期です。このようなとき、「一期一会」という言葉をよく耳にしますが、どのような意味をもつ言葉なのでしょうか。

「今日出会った人には二度と会うことが無いかもしれないので、その出会いを大切にし、誠心誠意尽くすこと。」

学校や仕事、いろいろな場で出会う人との出会いを一つ一つ大切にする。このことも、大事なことだと思います。しかし、これとは少し違った意味もあるようです。

「一期一会」という言葉は、元は茶道の大成者として教科書にも登場する千利休の弟子の山上宗二が、利休の言葉としてその著書の中で用いています。

その後、江戸時代末期、近江の国（現在の滋賀県）彦根藩の藩主、井伊直弼が、著書である『茶湯一会集』に、茶道の一番の心得として記したことから、四字熟語として広く知られるようになった言葉だそうです。江戸幕府の重役でもあった井伊直弼は、政治や武道だけではなく文学や茶道にも熱心に取り組んだ文化人でした。特に茶道の研究には熱心で、新しい流派をつくり、弟子となった家臣と茶会を開くなどしていたようです。

それによると、「一期一会」とは、

「初めて会う人だけでなく、毎日会う人や度々会う人にも、今日が最期と思い、その瞬間、瞬間を大切にすること。」

同じメンバー、同じ場所での集まりであっても、その機会は二度と繰り返されることはなく、生涯にたった一度きりの出会いである。すなわち、毎日会う家族や、友人や、職場の同僚、そして、初めて会う人たち、すべての人に対し、今日が一生に一回の機会という気持ちで、誠心誠意心を込めて接することが本当の『一期一会』ということなのです。

皆さんはいかがですか。毎日当たり前のように会っている家族や職場の同僚、友人たちにどのように接しているでしょうか。このように二通りの意味がある言葉ですが、どちらも大切なことだと思います。

中学生を卒業し、高校生、社会人と成長していくにつれて、人と人との関わりは広がっていきます。人との関りによって自分の人生が変わることもあります。人と人との関りの第一歩は出会いです。そこから日常の関わりに発展します。「この人と出会って良かった」とお互いに思えるような関わり方を、日頃から心掛けていくことが大切なのではないでしょうか。